

## クリーン作戦二題

〈香川森林管理事務所〉



高松市の庵治地区、屋島地区において、地域住民やボランティア等による大々的なクリーン作戦が行われました。

まずは、二月一七日に、庵治地区において、約一千人が参加し、「第一回むれ・あじ源平の里クリーン作戦」が行われました。

庵治地区では、美しい景観や源平合戦の古戦場である同地を不法投棄から守ろうと、住民有志等で作った実行委員会が初めてクリーン作戦を企画したもので、当所においても平谷国有林

を抱えていることから参画しました。

当日は、天候にも恵まれ、空き缶をはじめ、テレビや冷蔵庫等の家電製品、古タイヤなど、約一トンのごみを回収しました。



庵治地区・平谷国有林で回収したごみ

また、屋島地区では、三月三日に、約一千六百人が参加し、「第一二回屋島クリーン大作戦」が行われました。

屋島地区では、海岸線の県道沿いを中心に不法投棄が後を絶たないことから、毎年この時期にクリーン作戦を実施し、地域ぐるみで美化意識の高揚と不法投棄防止のPRに努めているものです。

当所では、屋島地区の県道及び市道の沿線の大部分が国有林（屋島国有林）であることから、毎年参加しています。当日は、茂みに捨てられたタイヤやテレビ、バッテリーなど約九トンのごみを回収しました。

高松市内の国有林における不法投棄については、地域の協力、高松市や警察と連携した撤去活動、摘発により、減少傾向にあるところです。

しかし、一部の心無い人達の悪質な不法投棄は後を絶たず、今後も、日常の巡視等とともに、地域や関係機関とも連携を図りながら、不法投棄の未然防止や清掃活動の保全管理に取り組んでいきます。



屋島クリーン大作戦での清掃活動の様子

## 「源平屋島の森」で

### 鳥の巣箱掛け

〈香川森林管理事務所〉



二月二四日、屋島国有林の「源平屋島の森」において鳥の巣箱掛けが行われ、七六名が参加しました。

「源平屋島の森」では、毎年三回森林ボランティア作業として、下草刈り、つる切り等の作業を行ってきましたが、今回は、地域の要望も踏まえて、高松市立屋島東小学校の児童を主体に、PTA、地元自治会の協力を得て、巣箱掛けを行うこととしたものです。

巣箱掛けの開始前には、日本野鳥の会香川県支部事務局から小鳥についての説



鳥の巣箱掛けの様子

明を受け、一二グループに分かれて作業を開始しました。参加した児童や自治会の方々は、鳥の縄張りや巣箱を設置する高さを考えながらクヌギやサクラの幹に巣箱を掛けていました。中にはシュロ縄が枝に絡まり、巣箱がうまく掛けられず苦勞している児童も見られました。自治会の方々のフォローにより、約四分で予定していた二四個す

べての巣箱を掛け終えました。

この箇所では、毎回下草刈り中心のボランティア作業を行っていますが、今回のように地域の要望等を踏まえて、実施内容に工夫をこらし、郷土の自然豊かな屋島をフィールドとした国有林のPRに努めていきたくと考えています。

### 北ノ川小学校

#### 森林散策体験開催

〈四万十森林管理署〉

一月二十九日、豊かな自然環境の中に住みながら、山へ行って遊ぶ機会がめったになく、地元の自然に触れさせてあげたいという先生の意向があり、高知県

四万十町立北ノ川小学校一年生〜四年生二三名を対象に、四万十楽舎の「山の一日先生出前授業」の一環として、冬の雑木林を散策しながら、自然にふれあい、自然と共感できる糸口を見つけることを目的に初めて開催されました。

四万十楽舎より四万十森林管理署に講師派遣依頼があり、当署の森林ふれあい

係長が講師として参加しました。

当日は、澄み切った空気の中、朝の冷え込みも厳しく、霜柱をさくさくと踏みながら森に入って行きました。雑木林の中、作業道やけもの道を歩きながら、山に登りました。「作業道は堅いけど、けもの道はふかふかの落ち葉が気持ちいいねえ」と、急傾斜の坂道も元気に登りました。

### 冬の森を散策



大喜びする場面もありました。

道中には、前日に降った雪が残っており、雪の上には動物の足跡がたくさん見られ、珍しいテンの足跡を見つけられた時は、皆んな大喜びしていました。また、イノシシの通った跡や、ウサギやシカのフンもあり、シカの角を拾って

冬の森を歩きながら感受性の豊かな児童は、ヤブニツケイの葉っぱの臭いがかいだり、虫眼鏡で土やコケを観察したり、タラヨウの葉っぱに文字を書いたり、ヤブツバキの花の不思議など、色々なことに触れながら、ふるさとの自然の楽しさを体験しました。

限られた短い時間ではありましたが、けがもなく無事に下山することができました。

なお、今回参加してくれた児童が、少しでも森林や林業に関心を持ち、自然の大切さやすばらしさを感じてくれることを願います。



一月三十一日、高知県室戸市立羽根小学校で小学五年生一四名を対象に森林教室を実施し、当署から講師として職員二名が参加しました。

はじめに、事前に提出し

てもらった森林についての質問に、答える形で森林教室を行いました。児童からは「なぜ日本の国土の三分の二が森林になったのか」、「ヒノキはなぜくさらず、長生きするのか」、「木が紙幣に使われるのはなぜか」といった様々な

視点からの質問が出され、頭を抱えながらの準備となりました。「ヒノキはなぜくさらず、長生きするのか」という質問に、ヒノキには殺虫効果のある成分が含まれているからだと言

明し、ヒノキで作られた世界最古の木造建築の法隆寺はなんと一三〇〇年も前に建てられたという話には、児童から驚きの声が上がりました。また、「木が紙幣

に使われているのはなぜか」という質問には、日本の紙幣はミツマタを原料とした和紙でできており、

丈夫できめ細やかな特性のため精巧な印刷にも耐えることができ、偽造しにくい世界最高水準を誇っているという話をすると、児童は感心したようでした。

次に、校庭に移動し森林の水涵養機能について模型を使った実験を行いました。まず、はげ山に水を撒き、はげ山は雨が降ると水が急に流れるため、土砂崩れや土石流が起きやすいことを説明しました。一方、

を話しました。水の浸透実験では、はげ山に比べ、森林の土壌は水を通しやすく水を貯める働きがあること、さらに森林の土壌を水が通る時に、汚れが浄化されきれいな水が飲めるようになることを説明しました。森林の土壌からきれいな水が流れてくる様子に、

子供達は「うわくきれいな水が流れてくる様子になっていく」と歓声を上げ、興味深そうに水が染み込む様子を観察していました。

はじめのうちは、おとなしかった児童も、最後は「この桜の木は葉がついていないが、枯れていないのか？」といった質問をしたり、「これから自然を大切にしようと思った。」といった感想

を述べたりし、森林や自然に対して興味を持ち、森林の重要性を理解したようでした。



緑のダムの説明